

高知大学教育学部「中等社会科指導法Ⅲ（地理歴史）」（2年生以上）授業実践報告

大坂, 遊
徳山大学経済学部 : 准教授

<https://hdl.handle.net/2324/4798352>

出版情報 : オンライン授業の地平 : 2020年度の実践報告, pp.25-25, 2021-04-30. 雷音学術出版
バージョン :
権利関係 : Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives International

1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

本授業は中学校社会科および高等学校地理歴史科の教員免許を取得するための必須科目である。筆者は本授業で、「他者の社会科授業の考え方にふれて、自身の社会科授業に関する信念を見つめ直すことができること」「社会科教育に関する様々な概念や理論を理解し、授業づくりに活用することができること」等を目指している。

3日間連続の集中講義のため、日ごとにテーマを設定して有意義に学ぶことができるようにした。テーマは、1日目から順に「なぜ(私は)社会科で地理や歴史を教えるのか?」「子どもが『いきいきと学ぶ』社会科の授業にするには?」「民主主義社会を支える子どもを育てるには?」とした。3日間に通底する授業の編成原理として、①午前中の授業では社会科らしい授業実践を題材にディスカッションを実施すること、②午後の授業では社会科授業づくりに関わる見方や考え方を習得・活用して課題に取り組むこと、③1日の最後には学習の成果を確かめるレポート課題に取り組むこと、の3点を意識した。

成績評価は、授業中の作業課題に対する取り組み状況(30%)、授業日ごとのレポート課題および振り返りアンケートの記述内容(70%)、その他(授業への貢献等に応じて加点)、の3点で評価を行った。最も大きな比重を占める毎日のレポート課題は、その日の授業で扱った内容を活用して授業プラン等を構想する課題が2問と、授業を通して自身の社会科教師としての信念・価値観等がどのように成長・変容したかを説明する課題が1問の計3問で構成した。課題はTeamsの課題フォームで提出・採点し、学生にも結果が見られるようにした。また、成績処理後にはレポートの採点基準や改善点等をフィードバックするコメント動画を作成し、Teamsにアップした。

非常勤講師として本授業を担当している都合上、例年この科目は春休み期間中に集中講義として開講してきた。今年度はコロナ禍によりオンラインでの実施となったため、筆者は学生と一度も対面することなく、自宅から遠隔で授業を実施することとなった。

実施にあたっては、通信環境の格差等を考慮して、講義形式の授業は原則として非同期型で行うという指針が大学から通達されていた。ただし、受講学生全員に許可を得ること、必要に応じて非同期型に切り替えられること、等の条件のもとで、同期型での実施も可能とのことだった。そこで、履修者が確定した時点で、Teamsと学内教務情報システムで学生に調査を行い、同期型で実施することを決定した。

「他者と協働して課題に取り組むこと」が授業目的に関わる重要な活動であり、例年は少人数でのグループワークを多く取り入れていた。オンライン授業でもこのような活動を保障したいと考え、5人程度の「班」を編成し、Zoomのブレイクアウトセッション機能やTeamsの共同編集機能を活用して、多様な作業課題に取り組んでもらった。

2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

大学が非同期型オンライン授業を推奨している関係上、学生は同期型の授業に慣れておらず、当初はZoomの機能の活用等で苦戦したが、1日目の午後には問題なく使用できるまで習熟した。任意で回答を求めた授業評価アンケートでは、Google Jamboard等の様々なオンライン学習ツールを活用した点がおおむね好評だった。大学の指針に従い、授業資料をすべて事前に配信することや、授業映像を録画して後から見返ることができるようにした点は、学習効果の向上という観点から今後も取り入れていきたい。